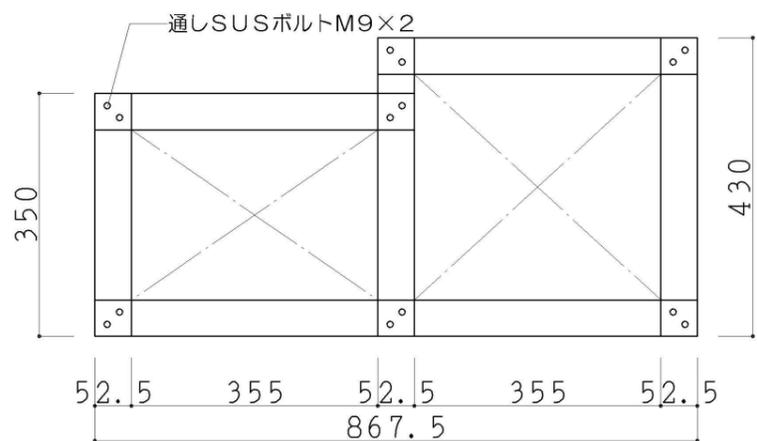
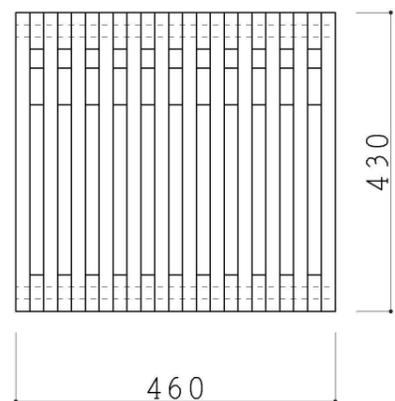


平面図 S = 1 : 10



側面図 S = 1 : 10



正面図 S = 1 : 10

※部材は全て杉、又はヒノキの上小節無垢材
20×52.5 (コーナー全て面取りR = 2程度)
水蒸気式高温熱処理の上無塗装表し

環境的負荷の軽減がさげられる昨今であるが、公共物にやみくもにコストをかけることにも厳しい目が向けられている。今回公共の場におけるファニチャーに求められるものをベンチという形で表現してみた。

● 環境負荷を減らす

- 小型の部材で作る
 - ・ 間伐材の利用も可能であり、端材も発生しにくい。そのことはまた材料のコストを抑えることにもなる。
- 部品が交換できる
 - ・ 組み立てに接着剤を使わないことで部品一つであっても容易に交換が効く。またそれは特殊な技術を必要としない単純な構成である事が望まれる。
- 耐久性がある
 - ・ 無垢材に対し水蒸気式の高熱処理を施すことで耐久性を増す。これは同時に部材の寸法安定性を高め、小さな部材を連続させるときに問題となるあばれの対策になる。

● 汎用性を高める

- 個人の体格差に対応できる
 - ・ 海外からの観光客も増える昨今座高は2種類を組み合わせることで体格差に対応する。これはまた、年齢差や身体的な状況にも対応する。
- 設置スペースに対して配置が可変である
 - ・ 全方向から寄り付ける形とすることで、組み合わせによる様々な設置シーンに対応する。移動可能単位を小さくすることで人力での配置換えも可能である。
- 安全であること
 - ・ 防腐剤を使わないことで、本来の木のぬくもりを感じることができる。小さいながらも部材の点数が多くなることで、急激な破損による怪我などを防止できる。

● 日本的であること

- 庭先に出る濡れ縁をイメージ
 - ・ 隙間があるからこそ風は抜け、雨は溜まらない。それは屋内に触れ合う屋外部分に存在してきたものなので、座る人に安心感を与える。
- 小さなものを組み上げて大きくする
 - ・ 日本は元来が木の文化であり、自然が決めた木の持つサイズを人間の利用方法に合わせて組み立ててきた。一つの単位も小さな部材で組み上げるが、その一単位も集合させることで大きな使い方もできる。